

【テキスト中に現れる記号について】

〈 〉：ルビ

（例）病びょうき気

「#」：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定

（例）「# 8 字下げ」―「# 「」は中見出し」

「# 8 字下げ」―「# 「」は中見出し」

太郎は長いあいだ、病びょうき気でふしていました。ようやく床とこからはなれて出られるようになりました。けれどまだ三月の末で、朝と晩には寒いことがありました。

だから、日のあたつているときには、外へ出てもさしつかえなかったけれど、晩がたになると早く家へはいるように、おかあさんからいきかされていました。

まだ、さくらの花も、ももの花も咲くには早うございましたけれど、うめだけが、かきねのきわに咲いていました。そして、雪もたいてい消えてしまつて、ただ大きな寺のうらや、畑はたけのすみのところなどに、いくぶんか消えずにのこっているくらいのものでありました。

太郎は、外に出ましたけれど、往来にはちょうど、だれも友だちが遊んでいませんでした。みんな天気がよいので、遠くの方まで遊びに行つたものとみえます。もし、この近所であつたら、自分も行つてみようと思つて、耳をすましてみましたけれど、それらしい声などはきこえなかつたのであります。

ひとりしよんぼりとして、太郎は家のまえに立っていました。畑には去年とりのこした野菜などが、新しくみどり色の芽をふきましたので、それを見ながら細い道を歩いていました。

すると、よい金の輪のふれあう音がして、ちょうどすずを鳴らすようにきこえてきました。

かなたを見ますと、往来の上をひとりの少年が、輪をまわしながら、走つてきました。そして、その輪は金色に光っていました。太郎は目を見はりました。かつてこんなに美しく光る輪を見なかつたからであります。しかも、少年のまわしてくる金の輪は二つで、それがたがいにならなくて、よい音色をたてるのであります。太郎はかつてこんなに手ぎわよく輪をまわす少年を見たことがありません。いつたいだれだろうと思つて、かなたの往来を走つて行く少年の顔をながめました。まったく見おぼえない少年でありました。

この知らぬ少年は、その往来をすぎるときに、ちよつと太郎の方をむいて微笑しました。ちよつと知つた友だちにむかつてするように、なつかしげに見えました。

「# 8 字下げ」二「# 「二」は中見出し」

輪をまわして行く少年のすがたは、やがて白い道の方に消えてしまい

ました。けれど、太郎はいつまでも立って、そのゆくえを見まもっていました。

太郎は、「だれだろう。」と、その少年のことを考えました。いつこの村へこしてきたのだろう？ それとも遠い町の方から、遊びにきたのだろうかと思いました。

あくる日の午後、太郎はまた畑の中に出てみました。すると、ちょうどきのうとおなじ時刻じこくに輪の鳴る音がきこえてきました。太郎はかなたの往来を見ますと、少年が二つの輪をまわして、走ってきました。その輪は金色にかがやいて見えました。少年はその往来をすぎるときに、こちらをむいて、きのうよりもいっそうなつかしげに、ほおえんだのであります。そして、なにかいいたげなようすをして、ちよつとくびをかしげましたが、ついそのまま行ってしまいました。

太郎は畑の中に立って、しょんぼりとして、少年のゆくえを見おくりました。いつしかそのすがたは、白い道のかなたに消えてしまったのです。けれど、いつまでもその少年の白い顔と、微笑とが太郎の目にのこっていて、とれませんでした。

「いったい、だれだろう。」と、太郎はふしぎに思えてなりませんでした。今まで一ども見たことがない少年だけれど、なんとなくいちばんしつたしい友だちのような気がしてならなかったのです。

あしたばかりは、ものをいってお友だちになろうと、いろいろ空想をえがきました。やがて、西の空が赤くなって、日暮れがたになりましたから、太郎は家の中にはいりました。

その晩、太郎は母親にむかって、二日もおなじ時刻に、金の輪をまわして走っている少年のことを語りました。母親は信じませんでした。

太郎は、少年と友だちになって、自分は少年から金の輪を一つわけて

もらって、往來の上をふたりでどこまでも走って行く夢を見ました。そして、いつしかふたりは、赤い夕やけ空の中にはいつてしまった夢をみました。

あくる日から、太郎はまた熱が出ました。そして、二三日めに七つでなくなりました。

底本：「小川未明童話集」新潮文庫、新潮社

1951（昭和26）年11月10日発行

1977（昭和52）年6月10日40刷

初出：「読売新聞」

1919（大正8）年1月21日～23日

入力：鈴

校正：小林繁雄

2011年12月31日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。